

2 喜多方の発展の歴史

(1) 古代～中世(縄文時代～弥生時代)

喜多方の夜明け

喜多方の夜明け

喜多方は、奥羽山脈に属する山々、越後山脈に属する丘陵、飯豊山系の山々に囲まれ、^{たづきがわ}田付川・押切川・濁川などが形成した緩勾配の複合扇状地に位置し、良質な地下水に恵まれている。

この地には、1万年前ごろから既にこの地方に人が住んでいたと言われている。縄文中期、雄国山麓の扇状地状の緩斜面は、狩猟・採集に適した豊かな自然があり、水の便も良く集落の立地に適していたことから、縄文文化が発展する。その後、水稻耕作が伝わり、低地に集落が増加する。

古墳時代の遺跡としては糠塚古墳群や山崎古墳群、熊倉の寺内古墳群などがある。



雄国山麓の縄文時代の遺跡
(資料: 図説喜多方の歴史)



糠塚古墳群(県指定史跡)